

安村 嘉能 (51)

YASUMURA YOSHINOBU

(派遣地) 小倉南区合馬
(出身地) 福岡市
(前職) 内装デザイン・企画
(着任日) 令和6年10月



合馬農産物直売所の、 かつての賑わいを取り戻す。

合馬農産物直売所ができたのは、1999年（平成11年）。約26年前のことです。全国的にも有名な「合馬のたけのこ」だけでなく、合馬地区の野菜や果物、地域の郷土料理を提供するお店として誕生しました。連日多くのお客さんが訪れ、活気に満ちていました。

しかし20年以上経過するかなで、頑張っていた生産者やお店のスタッフの皆さんも高齢化し、徐々に時代にそぐわないコモディティ化した「直売所」になってしまいました。新しいカタチで、しかも関わってきた生産者が集うことができる、そんな直売所の立て直しが必要、という機運が高まりました。

地域おこし協力隊に 応募したきっかけは 一杯の豆腐汁。

令和6年1月に小倉南区で開催された、「二地域居住体験ツアー」に参加しました。そこで北九州市、特に小倉南区に強い興味を持ちました。

ツアー期間中に合馬の「豆腐汁」をいただき、魅力ある郷土料理を後世に残す仕組み

づくりをしたい、と強く考えていました。個人的にも内装やコミュニティスペースの企画デザインをしており、スキルを役立てたいと考えていました。6月に公募があり、ここぞとばかりに応募しました。まさに渡りに船でした。



活動内容と、 移住から半年たったの今。

主たる活動場所は、合馬地区全体と「合馬農産物直売所」です。

「直売所」ではまず生産者とのコミュニケーションを第一にしました。彼らが何を望み、今後どうして行きたいかを聞き取るためにしっかりとコミュニケーションを取りました。

無闇に新しい仕組みを取り入れるのではなく、これまでやってきた販売方法、合馬での農業の魅力を聞き取りました。一番心がけたのは「生産者の笑顔」を取り戻すことです。「直売所」ができた当初の「熱量」を再現することを目標に、コミュニケーションをとっています。



目標は合馬地区に観光・農泊の ハブを作ること。

合馬地区は、小倉市街地より車で30分、福岡市からも高速バスで1時間弱と地理的なポテンシャルがあります。「合馬たけのこ」もあり、合馬のお米も非常に評価が高いのです。



ところが情報発信が不十分なうえ、遊びにきても寄れる場所がない。合馬の生産者の魅力を体験できる場所がないのです。

私はこれからの任期は、農業と観光の「ハブ」を作りたいと思います。合馬の皆さんとちょっと接点がなさそうな人たちとの接触面を作り、関係人口を増やしていくこと。その中で、合馬地区しいては、小倉南区全体のコンテンツを整理・発信して行きます。彼らの経験を「リアル」に体験できる場所として「合馬地区」の魅力発信を続けて行きたいと思っています。



サイクリストの皆さんに遊びにきてもらいました。

SNSで情報発信しています。

「地域おこし協力隊」としての活動をInstagramで情報発信しています。ぜひフォローしてください。

Instagram
yasumura.ouma

